

再生指針の取り組み状況について

取組項目	目的	現行指針の点検と評価			
		評価のポイント(案)	主な取り組み	達成度評価(大：◎/中：○/小△/留意点※)	アンケート調査結果(抜粋)(■居住者、□来街者)
1 住環境をまもり・つくるルール 取り組み	・良好な住環境の継承、創造	・地区計画等が団地の建替事業の計画をコントロールした効果、戸建て住宅地の景観保全への効果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●景観計画策定(豊中市)、景観まちづくり条例を制定(吹田市)[短期・中長期] ●建築協定策定(吹田市 10 地区)、地区計画策定(豊中市 5 地区、吹田市 1 地区)[継続] ●公的賃貸住宅建替え時に地区計画導入(府公社 8 地区・大阪府4地区・吹田市1地区)[継続] 	<p>◎建替にあたって、建物高さ、容積率の制限など、住環境確保に一定の効果</p> <p>◎住民は、街並みに魅力を感じる人が増え、また建替事業等による街並みへの貢献という点で評価されており、一定の効果があったと考えられる(*1)</p> <p>◎戸建て住宅では、地区計画等の住環境が守られるしくみが整いつつある</p> <p>※一部では、敷地細分化、団地建替による高密度化について、住環境を維持する上で課題とする声もある</p>	<p>■*1)街並みに魅力を感じる人は 80.6%(5 年前より上昇)</p> <p>□*1)街並みに魅力を感じる人は 72.0%</p> <p>■*1)新しい集合住宅については、「街並みがきれいになっている」が 69.9%、「歩きやすい道が増えている」が 43.4%</p>
2 地域の賑わいや交流の場づくり	・(新住民も含めた多様な世代が楽しみ、快適に生活していくまちとして)遊ぶ場や働く場などまちに賑わいをもたらす多様な場を創り出すこと	・再生事業を通じた遊ぶ、働く、楽しむ、交流するなどの多様な機能の導入効果及び、多世代の楽しむ場としての利用状況を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●千里中央地区再整備事業完了および新たな活性化ビジョンの実現に向けて関係者との勉強会開催(豊中市)[継続] ●「コラボ」開設(豊中市)、千里南地区センター再整備事業実施(吹田市)[継続] ●桃山台～南千里駅間沿道活性化構想(案)を策定。拠点整備支援等を推進予定(吹田市)[中長期・継続] ●賃貸住宅の建替えに伴う余剰地の民間開発において、地域でニーズのあったコンビニエンスストア設置を誘導(府公社)[中長期・継続] 	<p>◎中央地区センター、南地区センターの再整備については、商業機能が充実し、特に中央地区センターは住民からも評価(*2)されており、利便性の向上に効果があったと考えられる</p> <p>◎またコラボやラコルタなどの整備により、新たな交流機能が創出された</p> <p>△しかし「趣味・地域活動等のための施設」について、いずれの地区も住民からの評価が低い(*3)</p> <p>△北地区センターは、他に比べて買い物や生活サービスなどのサービス機能、交流機能への評価が低く(*4)、また売上高が下がっており、再生が求められる</p> <p>◎一方住宅地での取り組みに関しては、一部の賃貸住宅建替事業で、生活利便機能の導入が実現</p>	<p>■日常の買い物の場所は地区センター周辺が 86.2%で最も多い</p> <p>■*2)中央地区センターは、住民の 74.2%が「日常の買い物をするのに便利」と回答。</p> <p>*3)いずれの地区センターも「趣味・地域活動等のための施設が充実」12～28%程度、「医療・福祉、子育て等の生活サービスが整っている」23～34%程度と低い</p> <p>*4)北地区センターは、「日常の買い物をするのに便利」が 44.1%、「生活サービスが整っている」23.7%、「くつろぐのによい」が 16.6%</p> <p>■まちの将来像について「住宅地内等の身近な場所で買い物・食事等ができるお店のあるまち」が 74.4%、「文化的な活動が楽しめる機会があるまち」が 68.6%、「交流できる場所があるまち」が 58.7%、「働く場所があるまち」が 48.6%</p> <p>□来街者は「駅周辺以外でも買い物・食事等ができる」、「文化的な活動」があればもっと訪れたいと考えている</p>
3 柔軟な利用が可能なスペースの確保	・持続可能なまちとして再生していくため、社会情勢の変化に柔軟に対応する	・社会情勢の変化等に対応した用地・床利用ができていないかを検証 ・地域に不足している機能が立地できるスペースを継続的に確保できているかを検証	<ul style="list-style-type: none"> ●公的賃貸住宅建替時に活用用地創出等(府公社 10 団地・大阪府4住宅)[継続] ●活用用地で生活利便施設、福祉施設などの導入を誘導(府公社、大阪府、豊中市)[継続] ●中央地区センターの再整備により、医療福祉施設などの機能を導入(豊中市)[継続] ●南地区センターの再整備で高齢者拠点施設や市民公益活動拠点施設等を導入(吹田市)[継続] ●公共施設の空きスペースを活用した保育施設等導入(吹田市)[継続] ●東町近隣センターの再整備において、府営住宅用地との土地交換により再開発事業を実施(豊中市)[継続] 	<p>◎建替事業に伴い、用地や地域ニーズに応じた床が創出され、一部で生活利便機能等が導入</p> <p>△ただし、活用地の処分に当たっての制度的な制約もあり、用途は住宅が大多数を占め、福祉施設等のニーズに答えにくい面もある</p> <p>△戸建て住宅地では、生活利便施設等の機能が少ないという声もある(*5)</p>	<p>■*5)戸建て住宅地については「お店やサービス施設がないため生活にくい」が 25.2%(5 年前と同程度)</p> <p>「住宅地内等の身近な場所で買い物や食事ができるお店」をもとめる人が 74.4%</p>
4 近隣センターの活性化	・徒歩圏における日常の買い物の場だけでなく、福祉機能や地域交流の場など地域のサービス拠点としての役割を果たす	・サービス拠点としての多様な機能の導入ができていないかを検証	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣センター活性化に向けた調査、検討等(豊中市・吹田市・タウン財団)[継続] ●近隣センターのあり方について(案)の策定(吹田市)[継続] ●近隣センターで空き店舗の活用(豊中市・吹田市)[継続] ●近隣センターの活性化に向けた取組(豊中市(東町)、吹田市(竹見台、桃山台))[継続] 	<p>※センター毎の実情、活性化取り組みの状況と効果は様々である</p> <p>◎一部では、再開発等の検討を進めている</p> <p>◎既存店舗等を活用し、交流機能の向上等が見られるセンターもある</p> <p>△一方、日常的に近隣センターを利用している人は比較的少なく(*6)、空き店舗もある。住民からは新たな機能の導入が求められており(*7)、サービス拠点としての機能が十分でない</p>	<p>■*6)日常の買い物で近隣センターをほとんど利用しない人(年数回程度以下の利用)が 42.8%(5 年前と同程度)</p> <p>■利用者の利用施設は、スーパーマーケットが 56.3%、金融機関が 53.3%</p> <p>■*7)近隣センターを「今のままでよい」と考える人は 7.5%と少なく、求めることとして「買い物できる店の充実」が 68.0%、「医療・福祉・子育て等のサービスの充実」44.3%、「くつろげる場所」が 32.7%、「趣味や地域活動等の場所」が 28.0%</p>

取組項目	目的	現行指針の点検と評価			
		評価のポイント(案)	主な取り組み	達成度評価(大：◎/中：○/小△/留意点※)	アンケート調査結果(抜粋)(■居住者、□来街者)
5 多様な世帯のニーズに対応した住宅供給	・(まちの活力を維持するため)子育て世帯や夫婦世帯など、多様な世帯に対応した住宅や地域に不足する住宅の供給を促すこと	・それぞれの取り組みが、「コミュニティバランスの適正化」「既存ストックの有効活用」の観点から有効であったかを検証	<ul style="list-style-type: none"> ●市営住宅募集時に特別募集枠を実施(豊中市・吹田市)[短期・継続] ●高齢者向け優良賃貸住宅の供給(UR都市機構)[短期・継続] ●高齢者向け優良賃貸住宅、サービス付き高齢者向け住宅の情報提供(豊中市・吹田市)[短期・継続] ●ファミリー向け特定優良賃貸住宅の情報提供(吹田市)[短期・継続] ●高齢者向け返済特例制度の適用について住宅金融支援機構と協議確認書締結(吹田市)[短期・継続] ●公的賃貸住宅建替え時のバリアフリー化(府公社・UR都市機構・大阪府・吹田市)[短期・継続] ●賃貸住宅建替え時に高齢者向け優良賃貸住宅を供給(府公社1045戸)[短期・継続] ●新千里西町団地の地域医療福祉拠点へ位置付け(UR都市機構)[短期・継続] ●子育て世帯、高齢者世帯等、その世帯を支援する世帯が近くに居住するための制度を千里NT内を含む全団地で開始(府公社)[短期・継続] 	<p>◎公的賃貸住宅の建替え、それに伴う分譲マンションや高齢者向け有料老人ホームの新築等により、高齢世帯や子育て世帯などの住まいを供給</p> <p>◎団地の建替事業に伴って、活用地での分譲マンションの供給により、特に若年世代が流入</p> <p>◎また、千里外の居住者からも「魅力的な住宅がある」と一定評価されている(*8)</p> <p>※分譲マンションの大半は住戸規模 75～85 m²程度であり、逆に公的賃貸住宅では現入居者の構成に応じて小規模住宅に偏りがちとなるなど、住宅タイプの多様性という観点では課題がある</p> <p>◎既存団地においても、リノベーション等による多様化、募集方法等の工夫による若年世代の呼び込みが行われている</p> <p>△しかし、学生なども含んだ多様な世代の居住という視点では、住宅タイプの多様化等は十分と言い難い</p> <p>※住民等からは住宅タイプの多様化も期待されている(*9)</p>	<p>■団地の建替えや新築に関して、「若い世代など、住民が増えている」が 77.0%、「高齢者が住みやすい住宅が増えている」が 38.1%と一定評価</p> <p>□*8)来街者で千里に住みたいと考える人で、「魅力的な住宅がある」が 44.9%と一定評価。</p> <p>一方、現在千里に住みたいと考えていない人では、さらに「色々なタイプの住宅があり、移り住みやすいまち」になればよいと考える人も 27.6%</p> <p>■*9)まちの将来像について「色々なタイプの住宅があり、新しい住民が入居しやすいまち」が 60.9%</p>
6 公的賃貸住宅ストックを活用した多世代居住の推進	・まちの活力を高めるため、主に若年世帯の誘導を図ることで、バランスのとれた人口構成をめざすこと		<ul style="list-style-type: none"> ●市営住宅募集時に特別募集枠の実施(豊中市・吹田市)[短期] ●大学と連携した留学生向け住宅の提供(UR都市機構)[短期] ●入居募集における新婚子育て優先募集実施(府公社)[短期] ●既存借上型市営住宅の制度化(吹田市)[短期] ●千里青山台団地において U35 割(若年世帯向け定期借家)の導入、新千里西町・新千里東町・千里青山台・千里津雲台団地において子育て割の導入を実施(UR都市機構)[短期] ●MUJIと連携した団地リノベーションプロジェクト(新千里西町・新千里東町・千里青山台団地)、DIY 住宅(新千里北町・新千里東町・千里青山台・千里津雲台団地)の実施(UR都市機構)[短期] ●府営住宅総合募集時に新婚・子育て世帯向け及び期限付入居住宅(若年者世帯向け)募集の実施(大阪府)[短期] 		
7 ライフスタイルに応じて住み替えられる仕組み	・ライフステージの変化に応じたニーズに対応すること(例：高齢期の集合住宅、子育て期の戸建て住宅等)		<ul style="list-style-type: none"> ●民間賃貸住宅の情報提供、サービス付き高齢者向け住宅やあんしん賃貸検索システムによる情報提供(豊中市・吹田市)[中長期] ●「住まいと暮らしのマッチングシステム提案公募型事業」の実施(大阪府)[継続] 	○住み替えニーズに関しては、ニーズ自体が少ないと考えられる(*10)が、 一定の情報提供は実施 されている	■*10)現在の住まいから住み替えを考える人は 5.6%

取組項目	目的	現行指針の点検と評価			
		評価のポイント(案)	主な取り組み	達成度評価(大：◎/中：○/小△/留意点※)	アンケート調査結果(抜粋)(■居住者、□来街者)
8 住民・事業者・行政の協働の場の設置	・地域コミュニティの声をまちづくりに活かしていくこと	<p>・「地域の声を活かすこと」「ステークホルダ間の連携による効果」の実施状況と、できた空間等への影響・効果</p> <p>・PFI事業等におけるまちづくり貢献の効果を検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ラウンドテーブルを実施(吹田市・府公社・大阪府)[短期・継続] ●公的賃貸住宅の建替えに際して、出前講座等の勉強会を開催(吹田市)[短期・継続] ●幹線道路でのアドプト活動(豊中市・吹田市・大阪府)[短期・継続] ●コラボ運営懇談会の開催(豊中市)[短期・継続] 	<p>◎公的住宅事業の建替事業等において、ラウンドテーブル等により<u>地域住民等の声を計画に反映する仕組みが定着</u></p> <p>◎住民からは、<u>新たな歩行者空間の創出という点で評価</u>されている(*10)</p>	<p>■*10)団地の建替えや新築に関して、「歩きやすい道が増えている」が43.4%、「若い世代など住民が増えている」が77.0%、「街並みがきれいになっている」が69.9%、「高齢者が住みやすい住宅が増えている」が38.1%と評価されている(「よくないことの方が多い」は9.5%)</p>
9 行政や住宅事業者の連携	・より一体的なまちづくりを進めていくこと		<ul style="list-style-type: none"> ●公的賃貸住宅の建替え時に入居者仮移転について連携(UR 都市機構・府公社・大阪府)[短期] ●公社の再生地を市営住宅用地として譲渡(府公社・吹田市)[短期] ●賃貸住宅建替え時に歩道整備実施(府公社)[中長期] ●公的賃貸住宅の建替え計画などの情報共有(協議会) ●まちづくり基本構想に基づく協議を実施(大阪府・豊中市・吹田市)[短期] 	◎建替事業における入居者移転等に関して、 <u>連携による円滑な事業推進を実施</u>	
10 まちづくりに貢献する住宅の更新	・地域コミュニティ形成への配慮や周辺と調和した空間形成、環境負荷に配慮した設計などまちづくりに貢献すること		<ul style="list-style-type: none"> ●都市景観デザイン相談の開催(豊中市)、景観アドバイザー会議の開催(吹田市)[中長期] ●まちづくり指針・住区再生プラン(案)・環境まちづくりガイドライン【開発・建築版】策定(吹田市)[中長期] ●公的賃貸住宅の建替え時にコミュニティに配慮した規模の集会所設置(府公社・大阪府)[中長期] ●公的賃貸住宅建替PFI事業で、府営・民間の一体的まちづくり、地域動線確保(府、吹田市)[中長期] ●公的賃貸住宅建替え時に立体駐車場の屋上緑化、屋根に太陽光発電装置を設置(府公社)[継続] ●公的賃貸住宅建替時に、高齢者施設(有料老人ホーム)の併設や余剰地におけるコンビニエンスストアの導入を誘導(府公社)[中長期] ●「伊東豊雄×URみんなの庭プロジェクト」において、居住者参加型デザインによる庭づくりを通じ、コミュニティ形成に寄与する場づくりを実施(UR都市機構)[中長期] 	<p>◎左記のとおり、<u>いくつかのプロジェクトで地域のためのオープンスペースや施設導入などを実現</u>している</p> <p>◎団地の建替え等に関しては、<u>新たな歩行者空間の創出という点で評価</u>されており、まちづくり貢献の効果があつたと考えられる</p>	

取組項目	目的	現行指針の点検と評価			
		評価のポイント(案)	主な取り組み	達成度評価(大：◎／中：○／小△／留意点※)	アンケート調査結果(抜粋)(■居住者、□来街者)
11 歩いて暮らせるまちづくりのための交通環境整備	・自動車に頼りすぎず生活できる環境整備(高齢者等の生活利便性、環境負荷軽減等)	・歩行者・自転車環境の整備の進捗と効果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●歩行者空間整備(吹田市)、公的賃貸住宅建替え時に歩行者動線等の確保(府公社・大阪府)[中長期・継続] ●交通バリアフリー基本構想の策定(豊中市・吹田市)[中長期] ●駅周辺の主要な生活経路についてバリアフリー化事業(段差・勾配改善、点字ブロック、サイン、昇降機等)を実施(豊中市・吹田市)[中長期] 	◎ <u>建替事業等により、新たな歩行者空間の創出という点で評価されている</u> (*10) △ <u>新たな交通サービスや自転車走行環境の研究等には特段の取り組みはない</u>	■*10)団地の建替えや新築に関して、「歩きやすい道が増えている」が43.4%と評価されている
12 緑の保全と活用	・環境面からの配慮 ・アーバンデザインの視点で保全・継承・発展	・緑資源の保全のためのしくみ、保全の状況を検証 ・緑資源の活用が行われているか、またその効果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●生垣緑化助成等の実施(豊中市・吹田市)[中長期] ●賃貸住宅建替え時に団地内の既存緑地や特徴的な樹木の保全に配慮(府公社)[中長期] ●公的賃貸住宅建替え時に既存緑地と特徴的な樹木の保存(大阪府)[中長期] ●市民とともに育む遊歩道として、ワークショップや現地調査でニュータウン内に6コースを設定。遊歩道めぐり開催(吹田市)[中長期] ●公園等の自主管理協定、愛護活動登録、花いっぱい運動団体活動等の支援(豊中市)[中長期] ●千里南公園においてカフェ整備に取り組み中(吹田市)[中長期] ●公園敷地を活用した私立保育所の整備に取り組み中(吹田市)[中長期] 	◎アドプト活動や建替事業など、 <u>緑を保全するしくみは確立</u> ◎ <u>公園・緑地について魅力を感じる住民は増加</u> しており(*11)、緑資源の保全という観点から効果があったと考えられる △しかし、 <u>公園・緑地をほとんど利用しない住民も多く</u> (*12)、 <u>緑の活用という点では取組が十分でない</u> ○千里南公園でのカフェ整備など、緑を活かす取組が開始 △ <u>建替事業等においては、緑の増加という点では、住民からの評価低い</u> (*13)	■*11)公園・緑地の多さに魅力を感じる人は90.3%(5年前より上昇) ■*12)住民の45.2%が年数回程度以下しか利用しておらず、利用度が低い □来街者では月1回以上の利用が24.3%。休憩、散歩・運動、自然鑑賞、イベント参加で利用 ■□今後公園・緑地が「今のままでよい」と考える人は少なく(住民で12.5%、来街者で15.3%)、住民の54.4%が「子どもが安全に遊べる」、49.5%が「自然と親しめる」、38.7%が「カフェなどがありつるげる」、29.5%が「健康づくりに役立つ」場所の充実が求められている ■*13)団地の建替えや新築に関して、「緑が増えている」と感じない人は33.5%
13 公共施設の点検	・都市基盤施設の老朽化や災害時のライフラインの確保などへの対応	・都市基盤施設の改築・更新等の進捗を検証 ・行政・地域協働の公共施設点検等の取り組みの状況を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●配水管の順次入替え(豊中市・吹田市)[継続] ●歩道部の整備(補修・新設・改良)で透水性舗装を実施(豊中市・吹田市)[短期] ●交通バリアフリー基本構想等策定にあたり市民協働で意見交換実施(豊中市・吹田市)[中長期] ●下水道管渠の改築更新等を計画的かつ効率的に実施していくため、リスク評価による優先順位付けを行うストックマネジメント支援システムを構築(吹田市)[継続] 	◎ <u>順調に実施</u>	—
14 地域の防犯力の充実	・安心、安全に暮らせるまちに向けて、地域で支えあい、人の目の届くまちにすること	・行政サービスとしての実施状況とともに、地域、事業者による取り組み、連携などの展開状況を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民等による、高齢者、子育て家族への見守り活動実施(豊中市・吹田市)[継続] ●青色回転灯車両や防犯パトロール団体による地域パトロール実施(豊中市・吹田市)[継続] ●関係機関と連携した高齢者等の安否確認(豊中市)[短期・継続] ●搜索訓練を通じた安否確認ネットワークの構築(吹田市)[継続] ●地域防災リーダー育成講習会を実施(吹田市)[継続] ●自治会への自主防災会結成の啓発活動、防災資機材の無償提供(府公社)[継続] ●帰宅困難者対策、体験訓練等の取り組み(豊中市)[継続] 	◎ <u>住民団体等による活動が各種取組まれており、両市および住宅事業者等による支援も行われている</u>	■防犯・防災に関して魅力を感じる人は、44.9% □来街者では、55.0%の人が魅力を感じている
15 子育て・高齢者サービスの提供	・子育て世帯や高齢者が居住しやすいまちとすること		<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代や高齢者向けのセミナー等開催(豊中市・吹田市)[中長期・継続] ●市民公益活動センターを開設し、子育て世帯や高齢者などの世代間交流イベント等を開催(吹田市)[中長期・継続] ●千里文化センター「コラボ」において市民実行委員会が交流カフェ・屋上庭園の運営やイベント開催など世代間交流を開始(豊中市)[中長期・継続] ●基金の創設による市民公益活動への助成(吹田市・豊中市)[中長期・継続] ●地域コミュニティ形成のための出前講座や、地域自治の実現に向けた活動への支援(豊中市)[中長期・継続] 	◎ <u>交流施設整備により、活動の場や交流の機会が増加し、また活動助成などにより活動が活発化</u> △子育て・高齢者サービス施設については比較的住民から評価はされている(*14)が、 <u>施設数としてはまだ不足している面もある</u> △ <u>健康まちづくりというテーマでの研究等は特段行われていないが、体操イベントや健康遊具の設置等は実施されている</u>	■*14)サービス等に関して魅力を感じる人は、子育てで41.2%、医療・福祉施設61.7%(5年前より上昇) □来街者は、子育て環境で44.8%、医療・福祉施設で57.5%が魅力を感じている ■□まちの将来像について、居住者・来街者ともに「健康増進できる機会や場所が多いまち」になればよいと考える人が多い(居住者で69.0%)

取組項目	目的	現行指針の点検と評価			
		評価のポイント(案)	主な取り組み	達成度評価(大：◎/中：○/小△/留意点※)	アンケート調査結果(抜粋)(■居住者、□来街者)
16 地域と大学の交流と連携	・多くの大学が立地し、地域と大学が連携することで、新たな魅力や特色を生み出すまちづくりを進めること	・大学連携による取組の状況、取組による魅力創出等の効果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●大学と各分野における連携・協力を進めるための包括協定を締結し、哲学カフェや千里研究発表会等を実施(豊中市)[継続] ●市内5大学、研究機関、産業界、地域会社と連携した講座の実施(吹田市)[継続] ●専門的な資料提供やレファレンスの回答のため大学図書館・博物館など類似機関との情報の共有化実施(吹田市)[短期] ●図書館で大学生ボランティアによる読み聞かせの会を実施(吹田市)[継続] ●大学生による図書館に関する政策提言発表への参加・協力(豊中市)[継続] 	△大学の協力による活動など多様な取組を実施しているが、 <u>連携した事業・活動等の実施には至っていない</u>	—
17 生活文化の継承と発展	・現在活発な様々な活動を、今後、新たな住民も含めた連携を進めて、生活文化として継承と発展を図ること	・住民活動等への新たな住民等も含めた多様な人々の呼び込み・交流の状況、活動の展開状況の検証	<ul style="list-style-type: none"> ●千里ニュータウン内で展開される市民活動への支援(豊中市・吹田市)[継続] ●すこやかネット等において、学校を核として子どもと地域の交流を推進(豊中市)[継続] ●世代間交流の場を提供(吹田市)[継続] ●国際交流推進協会を中心とした、地域と留学生及び在住外国籍市民との交流事業を実施(吹田市)[継続] ●まちびらき50年事業において住民活動の相互連携や生活文化を継承できるイベントの実施(協議会)[継続] ●「千里ニュータウンにぎわいづくり支援事業」を実施し、千里ニュータウンの活性化、再生等に資する市民活動事業に助成(協議会)[継続] ●千里ニュータウン情報館では、芸術を媒介にした地域交流を目的とするグループの企画展を準備中(吹田市)[継続] 	◎住民活動の支援や団体間連携が行われ、 <u>活動の継承・発展が図られている</u> 。特に、千里キャンドルロードは地域イベントとして定着し、実行委員会にも若い世代が参加している △一方で、地域活動に関わる住民は比較的少なく(*15)、 <u>人材育成や新たな人の呼び込みが求められる</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■*15)地域活動に関わる人は19.0%で大半が自治会活動に参加 ■まちの将来像について、「文化的な活動が楽しめるまち」が68.6%、「交流できる場所があるまち」が58.7%、「いろいろな価値観に触れられるまち」が46.5%と、住民の多様な活動のできる場所・機会等が求められている
18 情報の蓄積と連携	・育んできた生活文化や、ニュータウンに関わる記録・資料等の情報を蓄積、連携し活用すること	・千里の文化・情報の蓄積・発信等の展開状況の検証	<ul style="list-style-type: none"> ●千里ニュータウン資料整理プロジェクトの実施(豊中市・吹田市)[短期・中長期] ●豊中吹田図書館広域利用事業を実施(豊中市・吹田市)[短期・中長期] ●千里南地区センター再整備において「千里ニュータウン情報館」を開設し、常設展示、企画展示を中心とした情報発信を実施(吹田市)[中長期] ●「ぶらり千里～魅力発見ガイドブック」の発行(豊中市)[中長期] 	◎情報収集・発信、図書館広域利用などの <u>取組を実施</u>	—
19 千里ニュータウン再生を担う人づくり	・ニュータウン再生に住民が主体的・継続的に関われるよう、新たな住民も含めた多世代の住民が交流し、まちづくりに関わる人材として成長すること	・人材育成、組織づくり等の成果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と大学の交流、大学の講座、行政出前講座の開催(豊中市・吹田市)[継続] ●地域活動団体を通じて、新しい人材の育成と市民活動の支援を実施(豊中市・吹田市)[継続] 	◎千里市民フォーラムやそこから派生した千里キャンドルロードなど、 <u>さまざまな市民活動団体が生まれ、活動を行っている</u> ◎講座やラウンドテーブル、フォーラム等の <u>まちづくりに関われるしくみが確立してきた</u> △一方で、地域活動に関わる住民は比較的少なく(*15)、 <u>人材育成や新たな人の呼び込みが求められる</u>	■*15)地域活動に関わる人は19.0%で大半が自治会活動に参加
20 千里ニュータウン再生を推進する仕組みづくり	・一体的なまちづくりやポテンシャルを高めるために、住民、事業者、行政に専門家を加えた自律的なマネジメント組織、その取り組みを資金面でサポートする仕組みをつくること	・住民、事業者、行政が連携したマネジメント組織づくりの状況、その成果を検証	<ul style="list-style-type: none"> ●再生に向けた推進体制調査研究を実施及び推進体制の検討(協議会)[短期] ●千里ニュータウンまちびらき50年事業を支援(協議会)[短期] 	◎ <u>連絡協議会において、各再生事業の情報共有等は行なわれている</u> △ <u>マネジメント組織の設立や資金準備等は実現していない</u> △公的団体だけが参加する協議会では、取り組める内容に限界があるため、 <u>例えば民間事業者や大学等の参画する体制が必要ではないかという声もある</u>	—